



白河二中だより

NO. 39

2024. 2. 2
白河市立白河第二中学校
発行責任者 小野 聡

必要なときに必要な人と

昨年度に引き続き、今年度も県教育委員会主催の「コミュニケーション能力育成事業」を受け、12月から3回のプログラムを実施しました。この事業の目的は、生徒の「自分の考えや思いを表現する力」「他者の考えや思いを理解する力」の育成を目指すことにありました。

12月の1回目は、4名の講師の先生とオリエンテーションを行い、じゃんけんやフルーツバスケットなどのゲームを通して、これまで話したことのなかったメンバー同士が、互いを知る機会となりました。



1月10日の2回目では、カウントアップゲームに続いて、ジェスチャーゲームを行いました。5名程度の班に分かれ、決められた「お題」をその場で創作し披露します。なおかつ、「泣いてる場合じゃないぞ」という一つのセリフを必ず入れなければならないという条件もつきました。当然、ストーリーを考えなければなりませんし、身体の動きだけで表現するわけですから、その方法も練らなければなりません。それぞれがどの役割を果たすか、もっとわかりやすい動きはないか、などと1年生も2年生も意見を出し合い、より良い表現を探し続けました。

3回目は、「あっち向いてホイ」から、じゃんけんで勝った人の指先を向かなければ負けとなる「こっち向いてホイ」、さらに、どちらも選ぶことができる「あっちこっち向いてホイ」が行われました。高度なゲームとなりますが、ご家庭でも挑戦し楽しんでみてはいかがでしょうか。そして、メインのジェスチャー創作ですが、この日は「お題」も班員で相談して決め、20分ほどの時間で動きや表情などを工夫していきました。この際も、前回同様、一人一人が考えや意見を言いつつ、話し合いながら折り合いをつけ、創作の完成へと近づけていきました。



3回のプログラムを通して、当初の目的の達成とともに、「決して人任せにせず、意見を出し合い、協力しながら物事を進めていけば、どんな困難も打ち破ることができるであろうこと」、また、「必要なときに必要な人と話し合えたり、相談したりできることが大切だ」と感じました。

その時、脳裏に浮かんだのは、以前、テレビ番組で「子どもが自分の部屋に入ってしまったら、何をしているかわからない。」「休みの日もお昼代だけ持って、朝から夕方まで帰ってこない。どこで何をしているのか……。」などの言葉を口にしている親を観て、なんて責任感のない保護者なんだと思ったことです。

本校の保護者の皆さんには、しっかりと子ども達と向き合っていただきたいと思いますし、関心をもってほしいと思います。子ども達にとって「必要な人」は、当然、家族です。それぞれの家庭で、今後も「必要なときに」しっかりとコミュニケーションを取っていきましょう。ちなみに、

- お子さんの得意な教科や苦手な教科を知っていますか？
- 学級での係活動やどのような生徒会活動をしているか知っていますか？
- お子さんが、今、どのような本を読んでいるか知っていますか？